写真2-77　京おどりの時期のぼんぼり

(オ) 先斗町（ぽんとちょう）

「先斗町」は，宮川町と同じく，寛文１０年（１６７０），鴨川と高瀬川の間の護岸工事により生まれた中の島に，延宝２年（１６７４）に若松町に５軒家が形成されたことを契機に，

図2-49　先斗町

急速に家が建ち並び，町並みが整っていったことが起源になる。正式に芸妓取扱いの許可が下りたのは，文化１０年（１８１３）になってからで，町の名前となっている先斗の由来は諸説あるが，ポルトガル語のポント（先，先端，点）に由来するとも言われている。

先斗町の「鴨川をどり」も，祇園甲部の「都をどり」と同様に明治５年（１８７２）の京都博覧会の余興として開催されたのが起源で，当初は裏寺町四条上る大竜寺横の「千代の家」で開催された。踊りの振り付けは尾上流で，現在は昭和２年（１９２７）に完成した先斗町歌舞練場で毎年春に開催され，「都をどり」と同じくまちが賑わいを見せる。

また，先斗町は鴨川の納涼床が行われる場所としても知られ，現在では毎年５月１日から９月３０日の間、先斗町を含めた二条大橋から五条大橋までの鴨川の西岸に，納涼の床組みが建てられる。鴨川の納涼床の歴史は古く，江戸時代に裕福な商人が夏に遠来の客をもてなすのに，四条河原付近の浅瀬や中洲に床几を置いたのが起源といわれている。安永９年（１７８０）に発行された「都名所図会」には，四条河原の床几などでの納涼の様子が描かれている。当初

写真2-78　先斗町の町並み

写真2-79　鴨川をどりの時期の先斗町

提供：先斗町お茶屋営業組合